



東京多摩みなみワイズメンズクラブ

chartered on 2016.7.17

**2021年
12月号
(第65号)**

今月のことば

「あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」
 (聖書: ヨハネの福音書 15章 17節) (小野実選)

2021~2022年度 主題

クラブ会長 伊藤幾夫「楽しさをシェアしよう！」

東新部部長 松香光夫(東京町田コスモス)

「何が問題か、どうしたら良いか、道は一つではない」

東日本区理事 大久保知宏(宇都宮)「私たちは 次の世代のために 何ができるか？」

アジア太平洋地域会長 大野 勉(神戸ポート)「100年を越えて変革しよう」

国際会長 キム・サンチェ(韓国)「世界とともにワイズメン」

《クラブ役員》会長 伊藤幾夫 直前会長 深尾香子

書記 田中博之 会計 綿引康司 担当主事 小野 実

(当クラブは、多摩市社会福祉協議会多摩ボランティア・市民活動支援センターの登録団体です。)

今月の強調テーマ: 記録(ヒストリアン)、キリスト教理解

12月合同例会「市民 X'mas」プログラム

(東京町田コスモス、東京多摩みなみ、東京町田スマイリング)

日時: 12月11日(土) 15:00~17:00

会場: 原町田教会 (Zoom 参加可)

《第1部》 クリスマス礼拝

メッセージ: 宮島牧人牧師、奏楽: 桑原良子

《第2部》 クリスマス祝会

司会: 古市健(東京町田コスモス)

開会点鐘 今村路加(東京町田コスモス)

ワイズソング

参加者紹介 権藤徳彦(東京町田コスモス)

会長メッセージ 今村路加(東京町田コスモス)

伊藤幾夫(東京多摩みなみ)

為我井輝忠(東京町田スマイリング)

クリスマス賛歌 竹野美歩、竹尾信吉

マリンバ演奏 秋永真里子

プレゼント交換

礼拝献金報告 松香光夫(東新部部長)

贈呈 東京 YMCA 国際協力募金へ

みんなで賛歌 「きよしこの夜」

閉会点鐘

(会場に参加される方は、300円相当の交換プレゼントをお持ちください。)

【巻頭言】 「収穫の喜び」

師走とはよく言ったもので、12月に入り何かとあわただしくなりました。この1年間頑張ってきた甲斐があり、2回のプランター講座も無事に終了いたしました。ご協力してくださった方々一人一人に感謝いたしたいと思います。振り返ってみますと、楽しい講座であったなという思いが強いです。



今回は、自分の専門である園芸という手段を用いて、「人と人を結びつける道具」、「人と人とのコミュニケーションの手段」、「野菜を育てていながら、実は自分の方が育てられてきたのではないか」などの効果を見出すことができました。本当に楽しい時間でした。本来、園芸は、畑や農地を耕すことから始まり、そして畝を立て、苗の植えつけや種をまくことをします。それでも大変な作業なのに、まいたら芽が出て間引き、除草、土寄せなどがあり、病害虫の防除などを通して、最後に収穫するということとなります。この一連の作業を通じて、労働の意義を知り、汗を流すことの喜びや大変さを知り、収穫の喜びを知るので。何でも同じです。目の前の苦しさを乗り越えたと、そこには「収穫」という何とも言えぬ喜びが待っているのです。

(藤田 智)

12月の Happy Birthday

石田孝次(15日)、田中博之(15日)

11月例会	在籍 9名 (内広義会員1名) 例会出席11名	出席内訳	メンバー	6名	BF	ファンド			
			メーキャップ	1名		切手	g(今年度累計 g)	オークション	0円
			出席率	88%		使用済み切手、少しでもご持参ください		(今年度累計)	0円)
			メネット	0名		ぽんぽこファンド	0円	スマイル	0円
			ビジター	5名		(今年度累計)		0円)	(今年度累計)

11 月例会報告

11月2(火)、東京多摩みなみクラブ 11月例会が11名の参加で Zoom にて開催されました。ゲストスピーカーに東京町田スマイリングクラブ会長の為我井さんをお招きし、「キリスト教と国際交流の実践を通して」というタイトルでスピーチをいただきました。キリスト教との出会い、後に教師への道を歩むきっかけとなった東海大学・松前重義氏、勤務先の高校の校長だった元東京 YMCA 総主事の池田鮮氏との出会いの話から始まり、高校・短大教師退職後の中国、スリランカ、フィリピンでの日本語教師としての経験や帰国後の国際交流関係のボランティア活動について、興味深くお話いただきました。



スリランカにて



フィリピンにて

東京町田スマイリングの今後の CS 活動に為我井さんの国際交流関連の経験、人脈が活かせるのではないかと、当クラブや近隣クラブもその活動に協力できるのではないかと感じました。

スピーチ後、各参加者からのひとことがあり、ハッピーバスデー、各種アピールの後、閉会点鐘で、定刻に終了いたしました。(田中記)

《出席者》11名：【メンバー】<東京多摩みなみ>石田、伊藤、田中、深尾、藤田、綿引【ビジター】<東京>佐藤<東京町田スマイリング>太田、為我井<東京八王子>小口、山本【メーカー】小野

10 月第 2 例会 (運営会議) 報告

11月8日(月) 19:00 から、Zoom で11月の第2例会が開催されました。会計報告、ぽんぼこ農園、プランター講座、東京 YMCA インターナショナルチャリティーラン等の情報共有等が行われ、協議事項として、佐々木さんを1月に会員として迎えることおよびその会費の扱い、1月例会は、在京ワイズ合同新年会に振り替えること、3月例会は、ベルブ永山でリアル開催を目標とすることが決定されました。

(田中記)

《出席者》6名:石田、伊藤、小野、田中、深尾、綿引

12 月 3 クラブ合同例会に寄せて

幹事：東京町田コスモスクラブ

会長：今村路加

ようやく新型コロナウイルス蔓延拡大に伴う緊急事態が解除されました。皆様ワクチン2回接種お済になりましたか？これからも感染拡大防止の取り組みは継続しなければなりません。ワイズ活動も十分ケアしながら取り組みましょう。さて12月は、3クラブ合同例会「市民クリスマス」になります。ワイズメンの交流を深め地域でワイズの活動を支え合う取り組みが広がることを願っています。



インターナショナル・チャリティーラン報告

インターナショナル・チャリティーランは、参加費で障がいのある子どもたちを支援するとともに、障がいへの社会的な理解と関心を高めることを目的とした各地の YMCA が主催する駅伝大会です。

1987年、YMCA 国際賛助会の主催で、東京で開催され、その後全国に広まり、現在では全国 21ヶ所の YMCA で開催されています。

東京 YMCA では、コロナ禍の中で、昨年に引き続いて、チームメンバーによるウォーキングの歩数をスマホのアプリで記録・報告してチームの平均歩数を競う大会となり、10月23日(土)~10月31日(日)の9日間に亘ってチームレースが開催されました。当クラブは、東京武蔵野多摩、東京八王子の各クラブとともに、西東京センターのチームを支援しましたが、当クラブは、参加費の支援だけではなく石田さんと田中がチームメンバーとして参加しました。合計48チーム、1,072人が参加し、総歩数約1億歩、距離にして約74,000km(地球1.8周)、益金は、約450万円となりました。西東京センターのチームは、43位でした。

個人的には、目標としていた1日8,000歩を達成でき、少し健康的な毎日を過ごすことができたこと、また、普段は歩かないところまで足を伸ばし、地元を知る良い機会ともなりました。

折角のチームレースでしたので、チームメンバーによる Zoom での決起大会や応援メッセージ交換等の交流があれば、よりチームの一体感を持ち、励みにもなったのではないかと思います。(田中記)

「東日本区 CS・Y サ事業主任」として

11月度報告：深尾香子

前月の末、大久保理事から「本業で出張があるので代理を！」との連絡が入り、11月13日(土)アジア太平洋地域のワークショップで、国際・交流事業主任の山田さん(宇都宮)と私が東日本区の活動報告を行いました。持ち時間は1分半×4コマ。山田さんが



TOF と RBM、私は、CS とブリテン編集について。各区のワイズが皆、コロナ禍の不自由な中でも地域のため、YMCA のために知恵を出し合い、汗をかきながら活動していることを聴いていると、ドキドキから次第に興味湧いて来ました。山田さんは、TOF により各国へ支援したその後の報告が少ないことを指摘、改善を要求されました。RBM では参加者から、東西日本区の献金額が他区に比べ高い達成率なのは何故か？と問われました(区、部での PR 活動が活発なことや、特殊な蚊帳の開発者が日本企業であることと、その経緯が TV によって全国放映されたことも影響していると思われる)。続く自分の番では、仙台アジア太平洋地域大会で参加者のお土産となった「鶴のレイ」の元の姿を示しながら、平和七夕が開催方法を変えて大成功し、来年に向けての折り鶴製作も始まったことと、東京グリーンクラブによる地域の小学生生徒たちなどへの“神田川船の会”が再開し、子どもたちが学習の成果をワイズに報告してくれていることを話しました。2つ目の報告「ブリテンの編集」で、理事通信の内容やブリテン書庫の存在を話すと、東日本区のウェブサイトによって、誰もがいつでも、区の動向や他クラブ情報を簡単に得られる事が評価されました。また、アジア太平洋地域の各区が翻訳版を発行出来ると、より一層お互いの活動を知りあうことが出来、存在を近く感じ合うことができるだろう、と夢のような話になりました。勝手に分からず臨んだ集まりでしたが、2時間が終わってみると、まだまだお互いに知らない事が多いということも分かり、こういう機会から、多くの学びと刺激を受けられることも分かりました(通訳担当の方々に感謝です。)

国内(東西日本区)では、新規事業「ユース・アクション」が始まっています。YMCA との協働事業で、若い人たちの想いに耳を傾ける、というワイズの本質に迫るものですので、特設ウェブサイトをお訪ねいただき、身近にいるユース世代に知らせ、参加を求めて下さい。

◆Youth Action 特設ウェブサイト

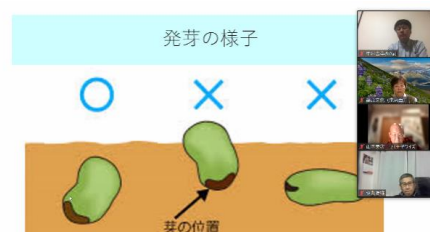
<https://sites.google.com/japanymca.org/youth-action2022>

- ・サイト内にチラシや各種申請書あり

第4回プランター講座の報告

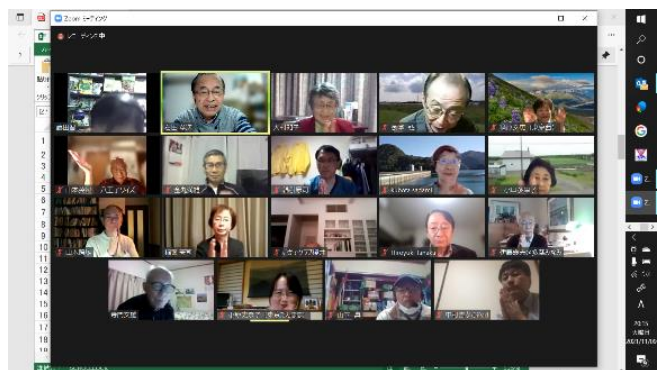
11月9日(火)の午後7時から東京多摩みなみクラブが主催している Zoom オンライン講座、「プランター講座」の第4回目が開催されました。今回のテーマは、「ソラマメとエンドウ」と越冬野菜の育て方について学びました。ワイズの他クラブの仲間やメネット、そしてその友人が中心となってお参加いただいています。第3回講座から聴講生の参加も取り入れました。回を重ねる毎に Zoom 画面を通して参加者同士のコミュニケーションが

広がり、野菜を育てる仲間としての一体感も芽生えてきました。そして、画面全体に笑顔が広がり、楽しまれている様子が画面越しに伝わってきます。また、聴講生の中には、見るだけの参加では物足りず、正規参加への変更を促すと本格参加に変更される方もいらっしゃいます。生育写真の様子をメールで事前に送っていただいているが、ナバナ、ノラボウナ、ターサイ、スイスチャードなどお馴染みではない品種にも果敢にチャレンジしていただいています。次回は、秋季講座の最終回となります。前回同様に、最終回に先立って東京多摩みなみクラブのボランティア事業である「プランター講座」の収支予想とご頂戴した参加費と講座運営の実費との差額、「剰余金」について分配案をお示ししました。前回同様に倣って東京YMCA への寄付3万円、地域慈善団体の子ども食



堂に1万円、高校卒業資格認定試験受験者向けの無料塾、慈有塾に1万円、残りの2.5万円は、主催クラブの運営費に充当する案を提示し、拍手をもってご了解をいただきました。今回から、ボランティア会計お考えをお示しし、収益、費用、ボランティアによるサポートの貢献度=寄付還元の関係を可視化してみました。より納得性が得られると思います。ボランティア活動の貢献価値を数値として「見える化」する一つの試みです。

(石田記)

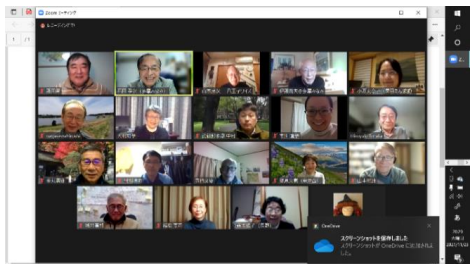


第5回(最終回)プランター講座の報告

11月23日(火)19時から第5回プランター講座が予定通り開催され延べ20人の参加者がZoomに登場してくれました。皆勤賞組の数名が都合で欠席となりましたが、玉ねぎの植え付け方と七草の話が終わった後、参加者一人一人の生育写真の講評を終えたところで、参加者の感想をお聞きました。「楽しかったよ。」「プランターでの野菜作りがこんなに楽しい



ことだと知ってうれしくなった。」「丁寧な運営に感謝しています。」などの感想があり、Zoomの画面越しに参加者の反応が確認できました。我がクラブの藤田講師が長年歩んできた野菜作りの指導と場の提供を通じて参加者が段々野菜作りに目覚め成長し感動を体験する。そして、楽しさは野菜だけではなく、参加する人たちの「和の場」「楽しい時間」を作っていただきました。そんな機会を見事に演出していただきました。そして、それをクラブメンバーが一致結束して支え、みんなのために役に立ったのだという達成感が湧いてきました。講座の最後に会計報告をしました。前回お話しした様に4,000円の参加費から実費を差し引き残ったお金を参加者みんなの総意で、前回同様東京YMCAの奉仕活動や被災者支援のファンドの一部に寄付し、また、地元で困窮者支援(聖



ヶ丘子供食堂)や苦学生を無償で支えている慈善団体(慈有塾)に寄付することになりました。

計5万円になります。そして、このプランター講座を支えているボランティア活動の姿を「見える化」し、ボランティア活動に伴う労働価値をお金に換算し、その同額を講座会計に寄付します。マイナスの労務費用とプラスの同額の寄付は、相殺勘定となりますが、ボランティア活動の価値を金額で示すことで貢献度を経済価値の大きさとして認識することができます。この講座は、藤田講師が東京多摩みなみクラブにいて実現できました。この様な形の他のイベント(例えば、お茶会、手芸、料理教室等々)を立ち上げ、Zoomを上手く活用しワイズの仲間にも声をかけ、更にワイズの友人や一般の方々にも広く参加してもらい、「楽しめる場」を提供し、その中からワイズらしい活動を作り上げて行くダイナミズムを生み出すための基本モデルに成ったらいいなと思っています。

(石田記)

東新部第2回評議会の報告

11月20日(土)18:30~20:30 Zoomで開催されました。参加者26名、委任状4名で定足数を満たしました。

審議事項は次の5件で、すべて承認されました。第1回評議会議事録承認、②次々期部長に城井廣邦さん(東京むかで)、次期監事に小川圭一さん(東京世田谷)、③第25回部大会報告承認、④次期部役員については、現時点では書記に伊藤、会計に綿引さん(ともに当クラブ)、国際・交流事業主査に為我井さん、ユース事業主査に城田さん(ともに東京町田スマイリング)の4人が承認され、他の役員については、決まり次第メールにて承認、⑤2月にEMCセミナー「Change!2022 ラストスパート」の開催を承認(日程は調整中)。報告事項として、松香部長の報告、石田書記から会計中間報告、各事業主査、専門委員長からの報告、各クラブ会長からの報告がありました。初めての夜間の評議会でしたが、今回は、ワークブックも事前にそろい、ほぼ予定通りに終了しました。部常任役員の深尾さん、石田さんのお働きも大きかったと思いました。

当クラブの出席者は、会長(伊藤)、書記(田中)、会計(綿引)でした。深尾さんと石田さんは部役員として出席。(伊藤記)

多摩市主催 市街美化キャンペーンに参加

私たちワイズメンは、W4W(Week for Waste(ゴミのための週):地域貢献活動の一環として、街の環境美化活動にも関心を持つこと)を国際的な取り組みとして進めています。10月下旬、多摩市の社会福祉協議会を通して、表記への協力要請があったのを好機と捉え、参加することが出来ました。

のぼり旗をめぐって集合場所へ行ってみると、既に数組の人だけが出来ていました。各々、市の職員から手袋、トング、大型のビニール袋、地図を渡され、各人が担当するエリアを指定されます。駅前からスタートしたので、初めはみつきりませんでした。遊歩道を通って住宅地に向かって進んで行くと、植栽のすき間やベンチの下に、煙草の吸殻や、菓子の袋、大物では旧くなった看板などを発見出来、いつしか気分が宝探しに。様子を見ていた親子連れからねぎらいの声を掛けてもらったり、好天にも恵まれて、再集合時にはしっかり分別、道具を返して終了になりました。昨今、ボランティア活動として実施する清掃活動に、ゲーム性を加味したものは聞いていましたが、正にそのとおり。もっと楽しさが宣伝出来たら、参加者も増えるのだろうと感じました。私たちの主催事業ではないので集合写真はありませんが、10月29日(金)多摩センター前、石田、同30日(土)綿引、深尾が参加しました。(深尾記)

第3回ワイズナイト・フォーラム開催

最終回となる第3回フォーラムは、11月21日(日) 20:00~21:45 オンライン(ZOOM)で開催されました。第1部の卓話者は、ワイズメンズクラブ国際協会元国際書記長の西村隆夫さん(現在は、チェンマイクラブ所属)で「国際書記長としてタイでの生活とオリンピックボランティアの経験」と題して、お話していただきました。1982年の大阪センテナアルクラブのチャーターメンバーとしてワイズライフがスタートしたこと、その後、東京クラブやいくつかのクラブを経て、2010年から2016年まで国際書記長として奉仕されました。タイ・チェンマイの国際協会サテライトオフィスの設立に関わり、現在に至っているということです。ワイズ人生の一大転機は、1988年京都国際会議場で開催された「京都国際大会」に関わったこと、そして2010年、横浜で開催された「横浜国際大会」での関わりが、国際書記長への応募につながったことなどリアルな経験を話されました。西村さんのポジティブな考え方は、2020東京五輪へのボランティアの応募にも繋がっていきます。

「いままでボランティアをしてきて、ほんとによかったです。嫌なことなどひとつもなかった。ワイズに入ったことで充実した人生を送れている。職業は10回変えたが、10回目がワイズ国際書記長でした」このコメントがすべてを言い表していると感じました。すばらしい話でした。

第2部のパネルディスカッションは相磯優子さん(Change! 2022 推進委員、沼津クラブ)がファシリテーターを務め、進められました。4つのクラブ、熱海クラブ、伊東クラブ、富士宮クラブ、東京江東クラブのメンバーがクラブ独自の奉仕活動を紹介されました。4クラブのパネラーはいずれも50歳前後のワイズメンで、クラブ活動の勢いを感じました。

今回の参加者は85名で、内一般参加者は10数名でした。今回は参加者が多く、しかも西日本区からの参加者が目立ちました。3回のフォーラムは、参加者が多く好評だったので、今後にどのように繋げていくかの検討が必要となります。(伊藤記)

ぽんぽこ農園便り

10月25日に里芋の収穫を終え、数日おいてからクラブメンバーや近隣クラブの方々に1袋200円~300円で買い取ってもらいました。収穫量は、50kgを超えていました。私は近隣に住むクラブメンバーと玉川学園、成瀬台エリア、井上さんは町田方面、田中さんは八王子エリアを回り宅配販売をしました。また、田中さんは、八王子クラブの例会会場に出張販売をしてくれ、例会参加者に大変喜んでいただくことができました。みなさんの「収穫作業」「販売活動」「購入協力」によってぽんぽこ農園で採れた里芋が、今後のクラブの活動ファンドとして活かされます。お陰様で、里芋の売上

金は、15,900円になりました。ありがとうございました。

一方、その後、佐々木さんと井上さんが植え付け、育ててくれた大根が、土壌改良の甲斐あってすくすくと成長し、見事な大根に育ってくれました。



日程の関係で収穫日と

プランター栽培の梱包作業が、共に11月18日(木)の午後に重なりましたが、佐々木さんが、恵泉女学園大学の梱包作業会場までビッグサイズの大根21本を届けてくれました。その場で参加者に買っていただき、合計2,100円になりました。残った10本は、深尾さんの機転で鮮度の高い状態で我がクラブが主催しているプランター講座の剰余金の一部とともに、地元のCS活動の一環として寄付している聖ヶ丘子供食堂(荒井さん)に5本(右写真)、聖蹟桜ヶ丘の無料塾の慈有塾(高木さん)に5本を寄付し、玄関先にお届けできました(下写真)。



子供食堂や困窮学生のお弁当の食材として活用していただきます。ご協力をいただきましたワイズの仲間々に心から感謝申し上げます。

また、待ちに待ったサツマイモの収穫は、雨の予報で順延することになりましたが、12月7日(火)になる予定です。即日販売します。(笑)(石田記)

在京ワイズ合同新年会のご案内

2022年1月8日(土)13:00から在京ワイズ合同新年会が開催されます。コロナの感染防止の観点から、ハイブリッド方式での開催となります。各クラブのリアル出席者は1名限定です。他のメンバーはZoom参加となります。当クラブは会長伊藤がリアル出席します。

当クラブはこの在京ワイズ合同新年会を「1月例会」として扱いますので、メンバー全員のZoom参加をお願いします。

特別講演として、「思い出のランドセルギフトにご協力を！=タリバンを動かした人」と題して、甲斐和歌子さん(NGO ジョイセフ)のお話があります。

(伊藤記)

東京八王子クラブ 11 月例会参加報告

11 月 13 日 (土) に八王子市・北野事務所にて開催された東京八王子クラブ例会に参加いたしました。私にとって実に久しぶりのリアルの例会出席でした。例会は、Zoom でも中継され、当クラブの石田さん、伊藤さんも参加されました。当クラブのハイブリッド例会再開に備えて新調したウェブカメラを持参し、会場全景、スピーカーのアップの画像等を提供しましたが、概ね好評だったようです。

スピーチは、八王子国際協会の花輪豊子さん(花輪直前会長のメネット)による「多文化共生のまちづくりを目指して」で、八王子市民として大変興味深く聴くことができました。

例会終了後、ぼんぼこ農園のサトイモを販売し、用意していった 19 袋が即、完売となりました。後に、何人かの方からは、大変美味しかったとのメッセージをいただきました。(田中記)



これからの予定

- * 12/8(水) 「祈りの輪」の日 (*別掲)
- * 12/11(土) 3 クラブ合同例会「市民クリスマス」
- * 12/13(月) 12 月第 2 例会 19:00～ Zoom
2022 年
- * 1/8(土) 在京ワイズ合同新年会
Zoom 13:00～15:00
当クラブは「1 月例会」の扱いとします。
- * 1/10(月) 第 2 例会 19:00～ Zoom
- * 1/10(月) 後期半年報提出
- * 1/15(土) 部次期役員準備会 I 18:30～Zoom
いよいよ深尾部体制の始動!

「祈りの輪」の日

12 月 8 日は、ワイズメンズクラブの創始者ポール・ウィリアム・アレキサンダーの誕生日。この日を記念して、世界中のワイズメンズクラブの会員が、それぞれの国の午後 8 時に「共に祈る時」を持って、地球上を輪でつなぐことを願うことから名付けられました。(伊藤記)

YMCA ニュース

担当主事 小野 実

いつも YMCA へのご理解とご協力に感謝いたします。

◆東京 YMCA 報告

- 11 月 11 日、東京 YMCA、在日本韓国 YMCA、東京 YWCA の共催による「YMCA/YWCA 合同祈禱週礼拝」が、東京 YWCA カフマンホールおよびオンラインで開催され、75 名が出席しました。渡辺俊彦氏(上馬キリスト教会牧師・東京 YMCA 医療福祉専門学校講師)に「失って得るもの」と題して説教をいただき、席上献金は、チャイルド・ファンド・ジャパンの働きのために献げられました。
- 11 月 13 日、会員部主催「ソシアス 2021」(会員協議会)が東陽町センターおよびオンラインで開催され、会員、職員合わせて 50 名が参加しました。「YMCA の会員活動の活性化に向けて」をテーマに意見交換を行ないました。

◆全国 YMCA 報告

- 全国 23 の YMCA では、「Amazon みんなでサンタクロースプログラム」に参画しています。東京 YMCA は、子ども食堂「下町こどもダイニング」や、日本語支援「にじいろサポート広場」に通う子どもたちへのクリスマスプレゼント(お菓子や文具)のご支援を、キャンペーンサイト上でアピールしています。

◆今後の主な行事日程

- オンライン講演会 12 月 4 日
主催：東京 YMCA 高等学院
「合理的配慮の実際ってどうなってるの？
～申請から実際までの流れ～」
講師：吉野智子氏
(早稲田大学障がい学生支援室コーディネーター)
- 第 16 回子育て講演会 1 月 29 日(オンライン)
講師：汐見稔幸氏(東京大学名誉教授、白梅学園大名誉学長、日本保育学会理事)
テーマ：「ポストコロナ・これからの時代に向けて！子育てで大切にしたいこと」
- 「YMCA ピンクシャツデー2022」2 月 23 日
(いじめ反対キャンペーン)

◆深悼

・浅見隆夫氏(午餐会世話人、元会員部運営委員、元ワイズメンズクラブ国際協会東日本区理事(東京グリーンクラブ))

11 月 10 日召天(享年 80)。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記 今年も師走となりました。コロナの影響でリアルな例会を一度も開催できませんでしたが、会員が工夫を凝らして、「プランター野菜講座」という新しい CS(地域奉仕)活動を開催し、多くの方から好評をいただいております。2022 年は Change!2022 の最終年。ラストスパート！(伊)